会議録

会議の名称	令和5年度第1回西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会
開催日時	令和5年4月 28 日(金)18 時 30 分～20 時 30 分
開催場所	田無第二庁舎４階会議室２・３
出席者	熊田委員(委員長)　小口委員　新野委員 伊藤委員(副委員長)　南委員　佐藤委員 坂根委員　中野委員　中岡委員 篠宮委員　山﨑委員　米本委員
欠席者	なし
議題	(1)令和4年度実施内容について(報告)【資料1・2】 (2)その他【資料3】
会議資料の名称	次第 【配付資料】 ○資料1　令和4年度実施内容 ○資料2　第4期西東京市地域福祉計画の振り返り ○資料3　第5期西東京市地域福祉計画策定スケジュール(令和5年度)(案) 【参考資料】 ○参考資料1　地域福祉に係るアンケート調査結果報告書(市民(18 歳以上)、民生委員・児童委員) ○参考資料2　地域福祉に係るアンケート調査結果報告書(市民(18 歳以上)、民生委員・児童委員)(わかりやすい版) ○参考資料3　地域福祉に係るアンケート・ヒアリング調査結果報告書(団体、事業者) ○参考資料4　地域福祉に係るアンケート・ヒアリング調査結果報告書(団体、事業者)(わかりやすい版) ○参考資料5　地域についてのアンケート調査結果報告書(小学生、中学生、高校生、大学生等) ○参考資料6　地域についてのアンケート調査結果報告書(小学生、中学生、高校生、大学生等)(わかりやすい版) ○参考資料7　地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に伴う地区懇談会実施報告書 ○参考資料8　地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に伴う地区懇談会実施報告書(わかりやすい版) ○参考資料9　「第4期西東京市地域福祉計画」進捗状況調査結果
記録方法	□全文記録 ■発言者の発言内容ごとの要点記録 □会議内容の要点記録

会議内容
■開会 傍聴希望者なし。 委員長、新任委員　挨拶。 ■議題（１）令和４年度実施内容について（報告）　【資料１・２】 事務局から、【資料１・２】を説明。 【主な意見】 〇委員長 調査結果を整理する際、弱いところ（十分でない）と強いところ（できている）、コロナで浮き彫りになったところとコロナと関係ない課題を整理する必要がある。 〇委員 一般的に成年後見制度がネガティブに捉えられている。実態や正しい情報を市民にわかっていただく周知が大事になる。それには実際にやっている我々が講演会、研修会、説明会等を通してお伝えすることが一番いい方法と思う。若い人には SNS 等で発信することも有効である。 ●事務局 困る前から成年後見という仕組みを伝えていくことが大事になる。成年後見制度利用促進計画で考えていきたい。 〇委員 長年、児童館は子どもの居場所として利用されている。資格を有する職員が専門的な関わりもしており、こども食堂や専門機関とも連携し、家庭支援につなげるような取組も行っている。是非とも、サードプレイスとしてかなり役立つ児童館を既存施設の活用の中に位置付けて活用してほしい。 〇委員長 サードプレイスとして児童館は積極的に活用すべきと思う。また、アメリカではサードプレイスとして図書館がとても活用されている。日本とアメリカの違いはあるが、図書館は本を読むだけでなく、地域の重要な社会資源として活用することも考えていきたい。 〇委員 アンケート調査は無作為調査とあるが、実際は地域ごとに配付数を配分したことは書くべき。インセンティブがなくても回答率 40%であった結果は非常に高く、市民の関心の高さと協力的な意識の表れと推測した。

調査結果では福祉全体に関わる問題として「情報」を重要視するべきであり、プッシュ型発信が必要である。

ボランティアへの関心はあるが実際には活動していないという傾向が調査結果からわかった。例えば、30 年以内に 70%の確率で直下型地震が発生することなど、市民を驚かすぐらいの情報を含めて発信し、実際の活動につなげる必要がある。

４つの地域でワークショップをやった結果、地区によって状況が違うことがわかった。今後、意識が同じような細かな地区をグルーピングするなど、将来的に地域を再編するような検討を進めることもできる。

調査で 1 位から 3 位の順位付けをした設問は、順位を重視した分析が必要である。

調査結果で「自治会があるかわからない」、「関心がない」という回答もあった。例えばマンションでは管理費から町会費が支払われているケースもあるが、それを知らないこともある。自治会が確認できるよう、自治会ごとのエリアマップなどがあるとよい。

近所づきあいの設問の「隣人との関係が悪化した」という選択肢は、使用した用語にやや問題があった。

ひきこもりの設問の性別分析は回答者の性別と思うが、本人の性別かと迷うところがあった。

災害が起こる前にどういうコミュニティをつくるかを調査結果で分析すると面白い情報が得られると思う。検討してほしい。

●事務局

今回の回答率から市民の関心度の高さが推測されるという感想をいただいた。これは調査設計の段階で委員の皆様から見やすく、回答しやすいようにというご意見が回答率につながったと考えており、改めて皆様に御礼申し上げる。

情報発信の重要性は本市としても強く認識しており、ご指摘を全庁に周知していく。また、防災意識の観点も踏まえ、今後、コミュニティ形成のための分析を可能な範囲で検討する。自治会ごとのエリアマップは庁内で確認する。

〇委員長

計画策定をサポートしているコンサルが全ての分析に明るいわけではないので、専門的な分析については委員各位からご提案いただきたい。

情報発信はとても大事であり、次回も柱となる。情報の収集からは発信までの一連の流れを改めて検討する必要がある。

ボランティアの関わり方が多様化している。登録をして継続的にやり続けるという従来の形だけでなく、関わりたいときに関わるようなスポット的なものも含めて、新しい関わり方のモデルをつくる時期にきている。

委員の指摘のとおり、自治会・町会が地域コミュニティの基礎組織である。そういった情報の発信方法も考えていく必要があると思う。

○委員
市民アンケートの回答率が 4 割という結果は低いと捉えている。その中で市の広報誌の工夫だけで果たしていいかという感じもある。スマホ等のソーシャルメディアによるアプローチもあると思う。また、“先回りのサービスや支援の情報を届ける取組”の具体的な内容を教えてほしい。

●事務局
情報発信については努力しているものの、まだまだ足りない部分であり、情報の浸透のしやすさを工夫していく。

●コンサル
“先回りのサービスや支援の情報を届ける取組”について、例えば、事前に登録した市民に向けて年齢や家族構成に即して必要となる情報を前もって届ける方法があり、他の自治体で実際にやっている。情報の収集・発信という一連の流れを整理する中でデジタルを活用して情報を先回りして発信するような取組と考えている。市での取組方法はこれから検討する段階である。

●事務局
現在も市ホームページではわかりやすい表記やアイコン等を設けている。今後も一層の工夫をしていく。

○委員長
情報を集められる人は集めるが、私も含めて、集められない人もいる。考え方として、集められる人に先回りして情報を提供する環境をつくることは大事である。一方、福祉では、集められない人へのサポートを考えていく議論が必要になる。私自身は情報が専門ではないので、皆様と議論しながら考えていきたい。

○委員
調査の中に認知症のことが見当たらなかったが、市長も認知症政策を重視している。認知症になったから施設に入った方がいいとか、デイサービスの迎えが来ているから地域活動に誘われなくなり、地域とのつながりが分断されるケースも見受けられる。認知症になっても地域とのつながりを続けながら、認知症の進行を遅らせることも十分考えられるので、そうした視点も計画に盛り込みたい。

●事務局
地域福祉計画は福祉分野の上位計画であり、高齢者計画ともリンクしている。認知症に

関する取組をどういう位置付けにするかは計画策定の中で検討したい。

〇委員長
今回の調査では、認知症は何らかの支援が必要な状況にある人・世帯の取組に関わってくる。ここには認知症、障害、あるいは薬物依存症など、色々な方が想定されている。それぞれの対応は、他の計画とリンクさせながら、どう支えていく、つなげていくかを、専門的な立場から教えていただきたい。

〇委員
全体計画の中で個別性の担保が重要な論点になるだろう。今後、計画策定の中で考えていく必要がある。

〇委員
精神科の医療機関で相談に従事している。精神科は若い人から高齢者まで幅広い。最近では中学生や高校生が自傷行為などで救急で運ばれてきた後、精神科の相談につながるケースが増えている。そういう人がつながれる場所があるといいと思うし、孤立しないような場、つながりがとても大事になる。

●事務局
つながりや交流が必要であり、心のケアも必要と思う。保健福祉分野で重要なことであり、今後の議論の中で委員各位の意見を賜りたい。

〇委員長
2つの場づくりがある。1つは、生きづらさを抱えている人の場である。そういう場を地域にどれだけつくれるか。そこを仲介するような場もあり、その場をどう設計するかを、委員各位の専門的な見識を聞きながら議論したい。
もう1つは、みんなが交流する場であり、全体の地域づくりの中でどうつくっていくかが大事になってくる。それは現在も社会福祉協議会が取り組んでいるので、専門的な立場から意見を伺いたい。

〇委員
ボランティア・市民活動センターで活動を支援している。若い人から高齢の人までいるが、何をやっていいのかわからない人もいる。
武蔵野大学の学生もグループで地域活動に積極的に参加してもらっているが、まちづくりを重く捉える人も多い。
住民懇談会を30年以上やってきた中で最近は高齢者の参加が多くなっている。高齢者がメインになってくると若い人の話を聞くことがなくなったり、逆に若い人がそこに行きた

くないという状況も出てきており、世代のつなげ方が課題となる。地域活動への参加条件などの調査結果も参考にして、世代をつなげていく取組から防災や防犯の意識につなげたいと考える。

団体・事業者ヒアリングの「登録してる方が同じでやってることも同じ」という意見のとおり、今は縦割りになってしまっている部分が確かにある。例えばささえあいネットワークやほっとネット推進員を横につないでいくこと、市民がやりたいことがさらに広がっていくような、また、若い人から高齢者まで幅広く関わってもらえるような仕組みを含めて計画策定の中で考えたい。

〇委員長

現行計画でもネットワーク整備はやってきたと思うが、進まない原因は何が考えられるか。

〇委員

制度的に分野が縦割りになっているところがあって、なかなか一元化できてない状況である。地区によって地域福祉コーディネーター事業と生活支援コーディネーター事業が一緒にやっていたり、ボランティア市民活動センターがやっていたりするところもある。社協の組織的な課題かもしれず、考え方も変えないといけない。

●事務局

ボランティアは貴重な地域資源であり、市民目線で組織間の連携、ネットワークの整備を進めることが必要と考えている。

〇委員

中学生を対象にした放課後カフェは学校で話せないことでも地域の人に話せるような場となっている。コロナ禍でできなかったので再開できるとよい。

民生委員の調査結果に出ていたひきこもりのことは、民生委員定例会で話が出ていなかった。民生委員本人が1人で抱えないよう、組織として解決したい。

地域には勉強についていけないから家にひきこもる小学生もいる。8050問題もある。しかし、個人情報保護の問題があり、民生委員の活動が制限されるケースがある。

〇委員長

民生委員だけで問題解決は不可能であり、専門職と連携して進めていくことが重要になるが、個人情報の連携・共有化はある種の難しさがある。調査結果でも連携が難しいという指摘があることから、連携しやすい体制や仕組みづくりが計画の1つの柱になると思う。

民生委員の中でもひきこもりやヤングケアラーへの理解に温度差があるという指摘であった。そういった点も計画の中で見える化していくことが重要と思う。

●事務局
放課後カフェへの理解は深めていきたい。また、重層的支援整備体制として多機関連携の体制整備を昨年度から取り組んでいる。風通しの面でまだまだ課題があると思うので、関係する方々にご協力いただきたい。

〇委員
関東大震災発生から 100 年である今年、東京消防庁は初期消火の浸透を防災訓練のテーマとして情報発信をしている。自治会だけでなく、共同住宅団地も自治会のような捉え方をして、そういうコミュニティが増えると情報発信の面で非常に助かる。また、例えば、奥多摩（町）では高齢者世帯に防災行政無線受信機を配備して情報を届ける方法をとっている。

●事務局
まちづくりフェスで初期消火の体験を行った。消防署の協力で消防車をだしていただいたところ、子どもがすごく集まり、非常に盛況であった。保護者も一緒に消火器体験を行い、防災への関心を高めてもらった。
市でも福祉的な観点から防災無線の戸別受信機を設置しているが、都市部は電波が不安定なこともある。色々な工夫をしながら市民の防災意識を高めていきたい。

〇委員長
災害は誰もが関心を持っており、将来的に東京で大地震が発生する可能性がある状況である。日頃から災害を意識して地域でしっかり関係性をつくることがすごく大事である。イベントなどで高めた防災への関心を一過性で終わらせない工夫を委員会でも考えていきたい。

〇委員
青少年は特殊詐欺、スマホでの闇バイトが多くなっている。自分の情報をだしてしまうと、もう引き返せない。高齢者は孤独から万引きをしてしまうケースが多い。薬物や窃盗の依存症もある。
保護司活動は自分の家で面接を行うが、自宅では難しいという保護司が増えているため、市役所の会議室を利用できるよう要望している。
刑務所を仮釈放した人には関わるが、満期で出所した人は何の関わりもない。つながりを続けていかないと、再び犯罪を起こす可能性が高まるため、矯正施設でフォローする動きもある。
住吉町にあるルピナスは、子どもの居場所としてとてもいいものになっている。中学生や高校生が勉強したり、空いていれば使えるので私達も話し合いをしたりしている。ルピ

ナスのような場所が欲しいという話はしている。

●事務局

再犯防止については、犯罪をさせないまちづくりと再犯防止という両面から、保護司の皆様と連携して次期計画で検討していきたい。ルピナスへの意見は関係部署と共有する。

〇委員長

私自身は再犯防止について明るくない。実態がわからないので、今後、委員の見識を教えていただきたい。罪を犯した人に地域で何ができるのか、何ができないのかを明らかにして、支援活動がしやすい環境を段階的につくっていくことが大事になる。

ルピナスのような活用しやすい場所も今後の課題であろう。

〇副委員長

委員各位の意見はどれも大事と感じた。計画はある程度抽象化することになるが、意見を大切にいかしたいと思う。

調査結果からは、見える課題と見えない課題が整理されてきた。見える課題は道路状況や交通問題。簡単には進まないが、市で取り組んでいただきたい。一方、見えない課題はヤングケアラー、不登校、ひきこもり、自ら発信しない、支援を拒否するケースが当てはまる。こうした課題には専門家同士が丁寧に個別に見ていく支援チームが必要と思う。分野横断的な連携を計画策定の中で考えていきたい。

情報発信は非常に重要である。地区懇談会やアンケート結果から、情報はあるけれども必要なときに届かない、どこに何があるかわからないなどの意見があった。外国人の文化や母国語を大事にすること、外国人にわかりやすい文章にすることも含めて、情報を集約して見やすくするように整理して届けていくことが大事である。

■議題（２）その他【資料３】

事務局から、【資料３】を説明。

●事務局

次回の会議は５月中旬以降を考えている。進捗状況を踏まえて、改めて連絡する。

■閉会